

# 西宮市の将来人口推計

政策局 政策総括室 政策推進課



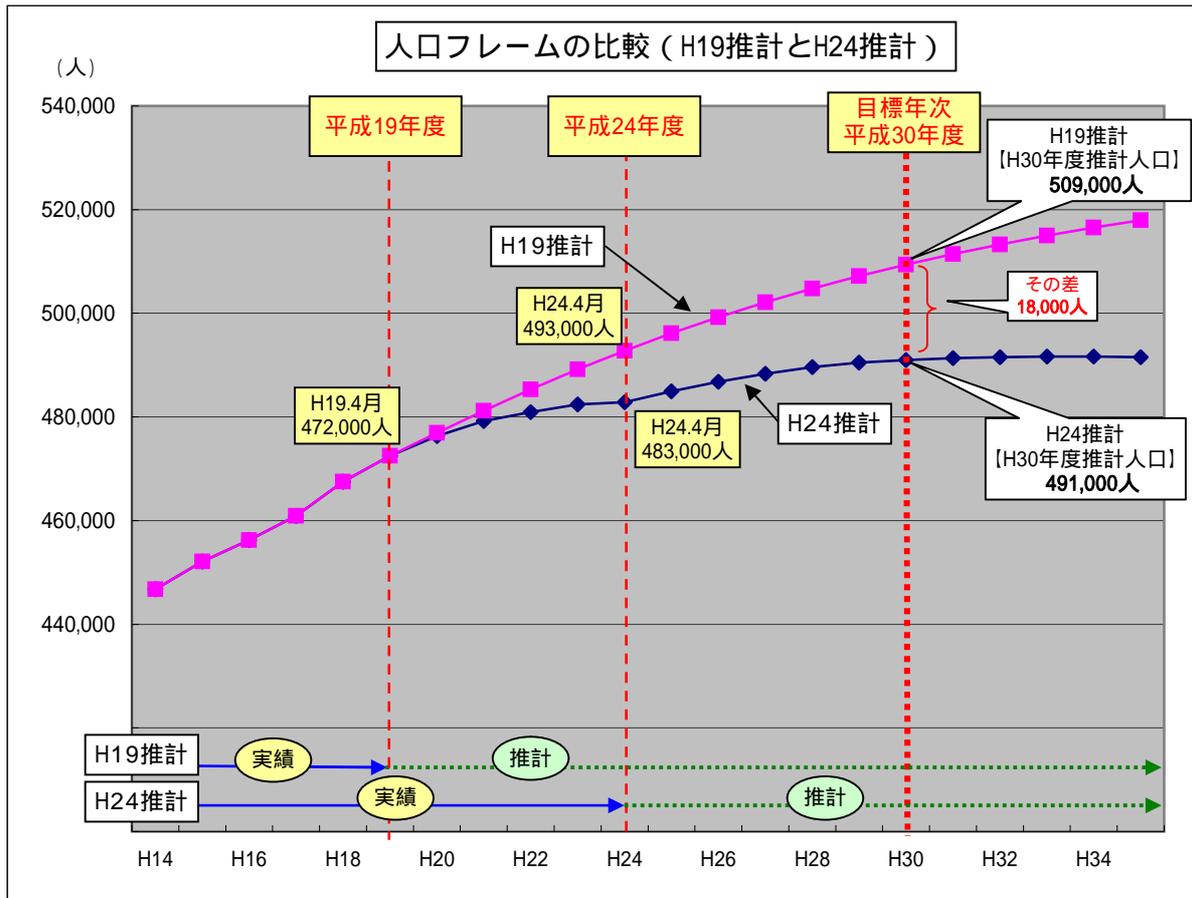
# 人口推計（平成24年6月）

## 人口フレームの比較

第4次総合計画の策定当初の将来人口推計は、平成14年(2001年)から19年(2007年)の住民基本台帳登録人口及び外国人登録人口を基に、20年(2008年)から30年(2018年)までの約10年間の推計値を算出したものである（H19推計とします）。

平成24年4月までの推計人口の推移（実績）と当初推計の推移（H19推計）を比較したところ、24年4月時点で、約1万人実績が下回った。

また、最新のデータを基に推計したところ（H24推計とします）、H19推計で目標年次の平成30年度には50.9万人に達する推計であったが、H24推計では50万人に到達しないと推計される。



## 人口推計推移の比較

H19推計については、H19までは実績、H20以降は推計値です。

H24推計については、H24までは実績、H25以降は推計値です。

単位：人

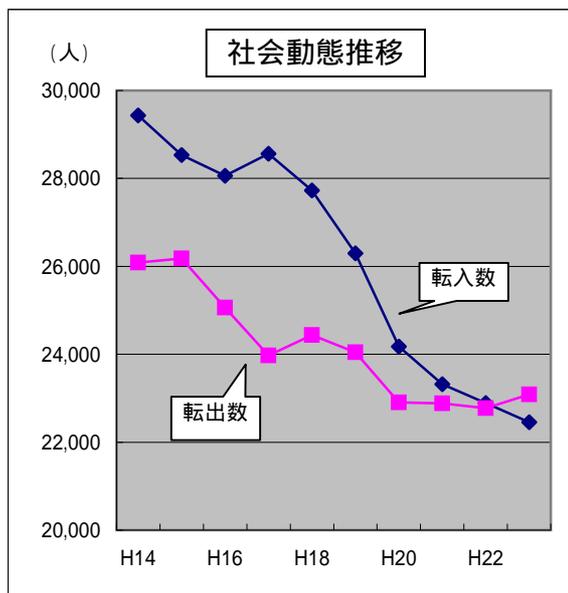
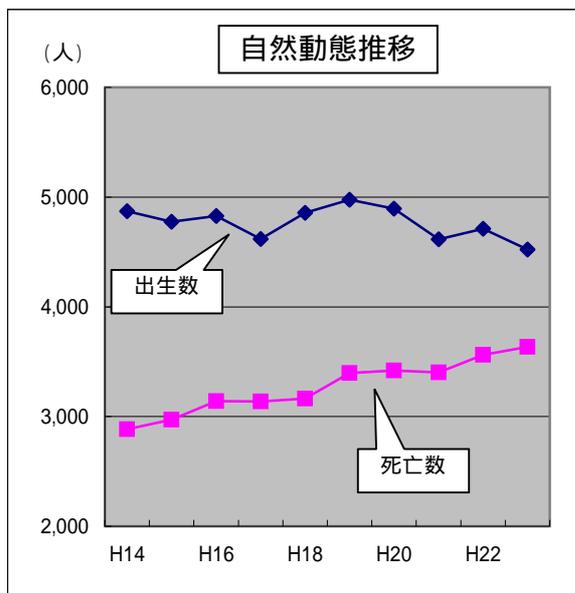
	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012
H19推計	447,000	452,000	456,000	461,000	467,000	472,000	477,000	481,000	485,000	489,000	493,000
H24推計	-	-	-	-	-	-	476,329	479,192	480,920	482,382	482,858
差	-	-	-	-	-	-	-671	-1,808	-4,080	-6,618	-10,142

	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023
H19推計	496,000	499,000	502,000	505,000	507,000	509,000	511,000	513,000	515,000	517,000	518,000
H24推計	485,000	487,000	488,000	490,000	490,000	491,000	491,000	492,000	492,000	492,000	492,000
差	-11,000	-12,000	-14,000	-15,000	-17,000	-18,000	-20,000	-21,000	-23,000	-25,000	-26,000

## 人口動態の推移

西宮市の近年の自然動態推移と社会動態推移は以下のとおりである。

この2つの推移を見ると、自然動態推移については、出生人数と死亡人数の差は小さくなっているものの、傾向としては大きく変わっていないが、社会動態推移については、近年、転入数と転出数の差がなくなってきている。



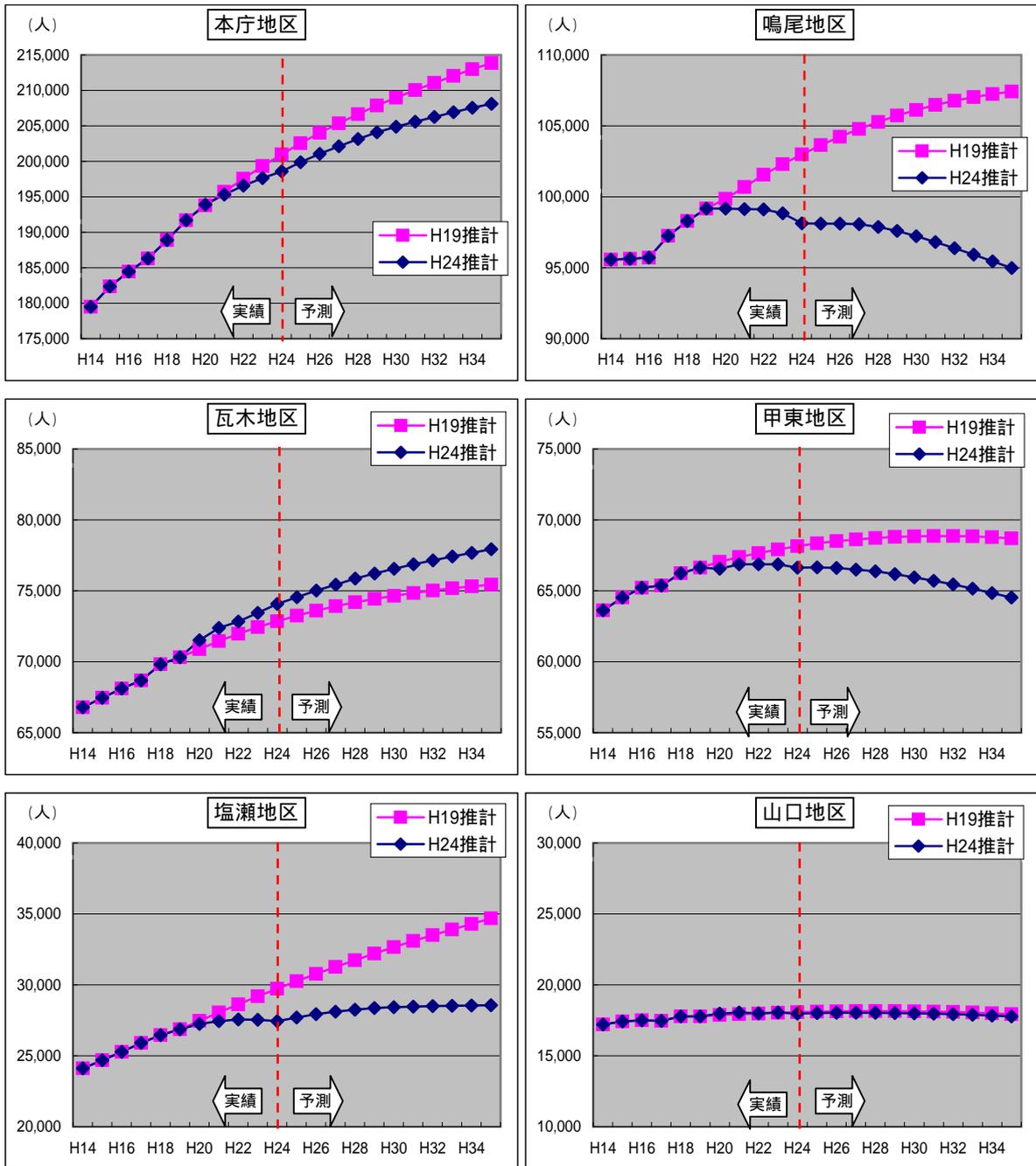
## 人口動態の推移

単位:人

		H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011
自然動態	出生	4,870	4,774	4,827	4,617	4,858	4,977	4,894	4,615	4,711	4,522
	死亡	2,883	2,972	3,141	3,138	3,165	3,397	3,420	3,403	3,561	3,635
	増減	1,987	1,802	1,686	1,479	1,693	1,580	1,474	1,212	1,150	887
社会動態	転入	29,431	28,531	28,062	28,565	27,728	26,294	24,173	23,319	22,891	22,452
	転出	26,087	26,178	25,060	23,969	24,434	24,045	22,906	22,886	22,773	23,089
	増減	3,344	2,353	3,002	4,596	3,294	2,249	1,267	433	118	-637
全体増減	5,331	4,155	4,688	6,075	4,987	3,829	2,741	1,645	1,268	250	

行政区域別人口フレームの比較 (H19推計とH24推計)

行政区域別の人口フレームについて、H19推計とH24推計を比較したグラフは以下のとおりである。これを見ると、鳴尾地区において推計の乖離が大きい。



行政区域別人口フレーム (H24推計)

単位：人

	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023
全市	483,000	485,000	487,000	488,000	490,000	490,000	491,000	491,000	492,000	492,000	492,000	492,000
本庁	199,000	200,000	201,000	202,000	203,000	204,000	205,000	206,000	206,000	207,000	208,000	208,000
鳴尾	98,000	98,000	98,000	98,000	98,000	98,000	97,000	97,000	96,000	96,000	95,000	95,000
瓦木	74,000	75,000	75,000	75,000	76,000	76,000	77,000	77,000	77,000	77,000	78,000	78,000
甲東	67,000	67,000	67,000	67,000	66,000	66,000	66,000	66,000	65,000	65,000	65,000	65,000
塩瀬	27,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	29,000	29,000	29,000	29,000
山口	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000

四捨五入処理を行っているため、全市と地区合計が一致しない年があります。



西宮市の将来人口推計  
(追加資料)

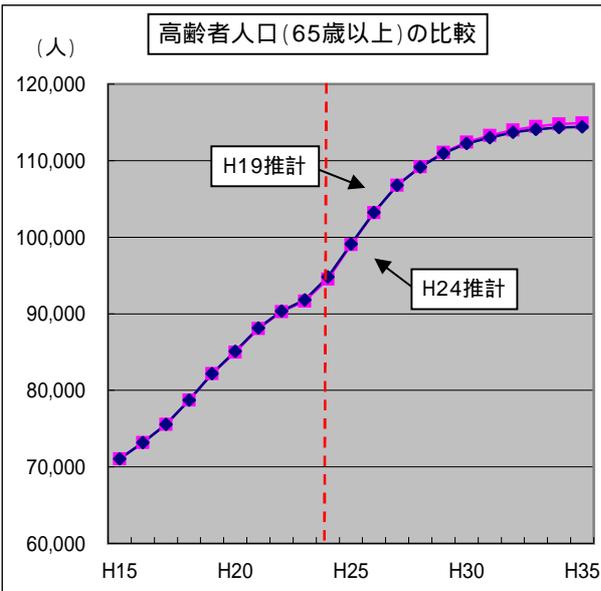
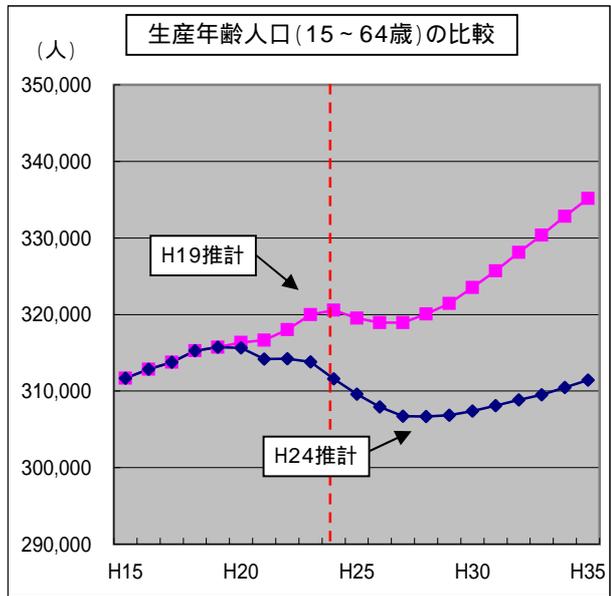
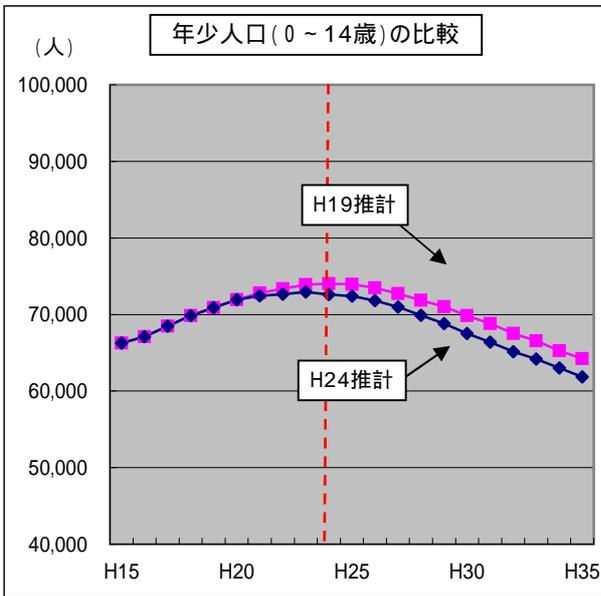
年齢階層別人口推計 (H19推計とH24推計の比較)

数値は登録人口です。 単位：人

全市	H19推計	H19(実績)	H24	H30	H35
		2007	2012	2018	2023
人数	年少人口 (0～14歳)	70,884	74,014	69,843	64,214
	生産年齢人口 (15～64歳)	315,718	320,560	323,504	335,136
	高齢者人口 (65歳～)	82,170	94,536	112,417	114,932
	登録人口合計	468,772	489,110	505,764	514,282
割合	年少人口 (0～14歳)	15.1%	15.1%	13.8%	12.5%
	生産年齢人口 (15～64歳)	67.4%	65.5%	64.0%	65.2%
	高齢者人口 (65歳～)	17.5%	19.3%	22.2%	22.3%

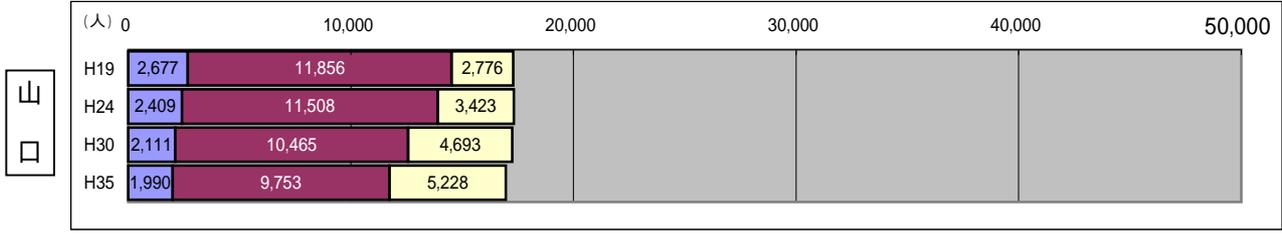
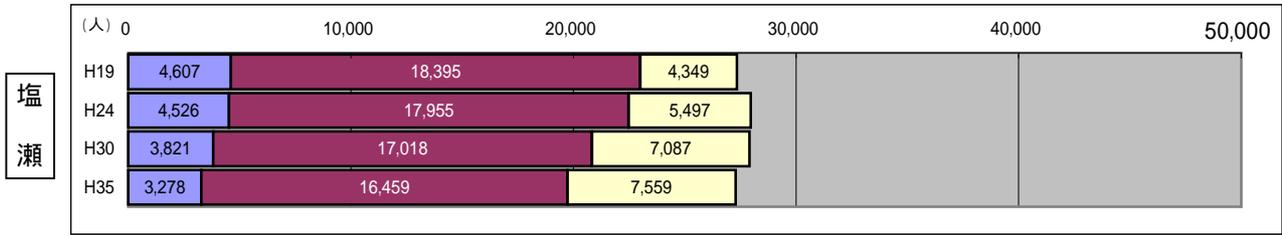
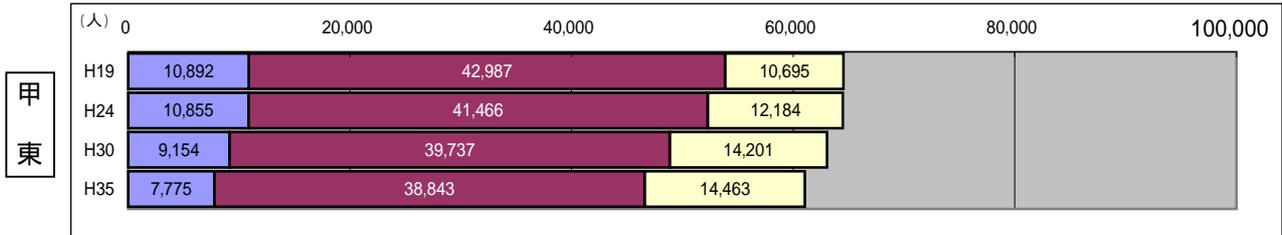
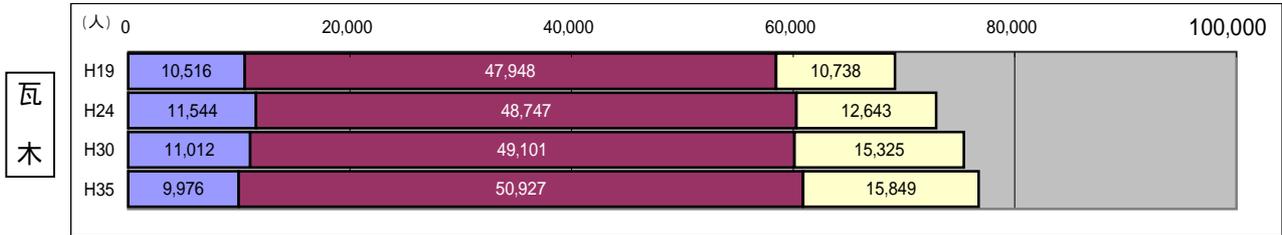
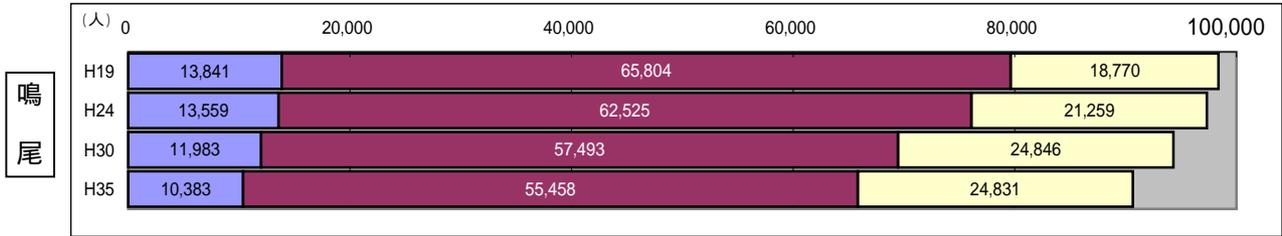
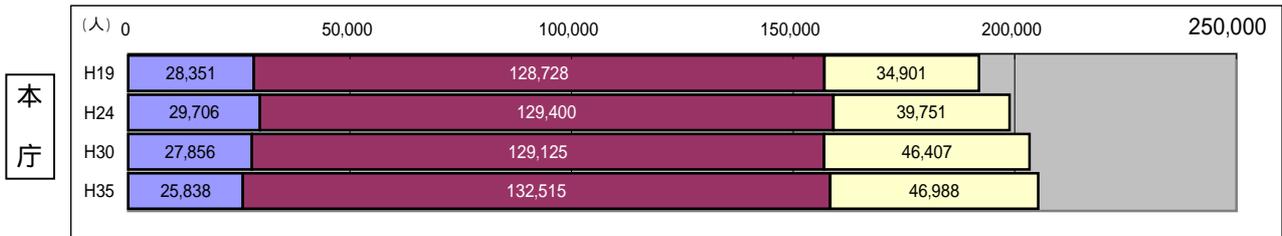
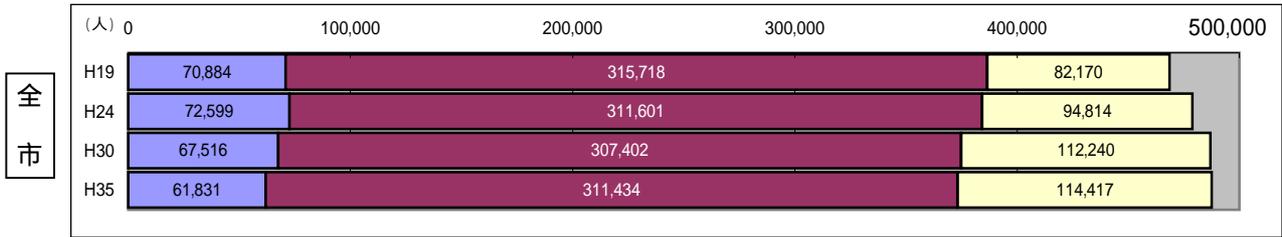
数値は登録人口です。 単位：人

全市	H24推計	H19(実績)	H24(実績)	H30	H35
		2007	2012	2018	2023
人数	年少人口 (0～14歳)	70,884	72,599	67,516	61,831
	生産年齢人口 (15～64歳)	315,718	311,601	307,402	311,434
	高齢者人口 (65歳～)	82,170	94,814	112,240	114,417
	登録人口合計	468,772	479,014	487,158	487,682
割合	年少人口 (0～14歳)	15.1%	15.2%	13.9%	12.7%
	生産年齢人口 (15～64歳)	67.4%	65.1%	63.1%	63.9%
	高齢者人口 (65歳～)	17.5%	19.8%	23.0%	23.5%



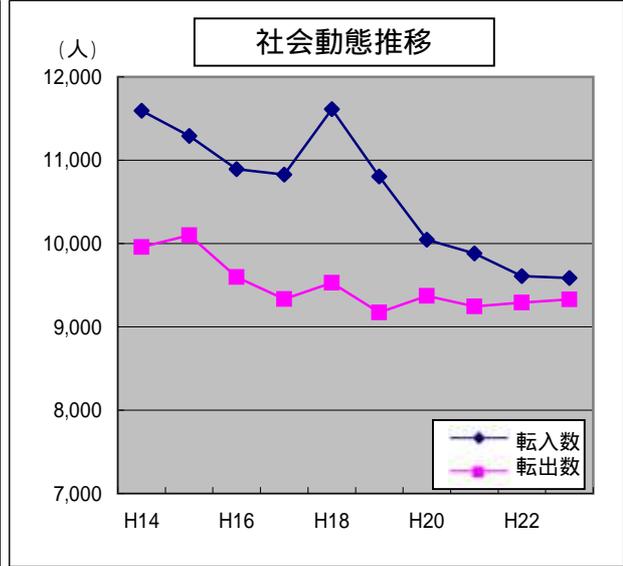
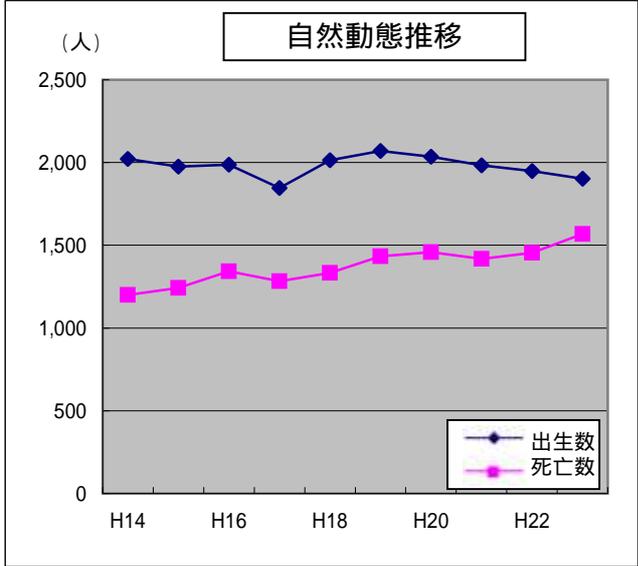
# 年齢階層別人口推計

■ 高齢者人口 (65歳~)  
■ 生産年齢人口 (15~64歳)  
■ 年少人口 (0~14歳)

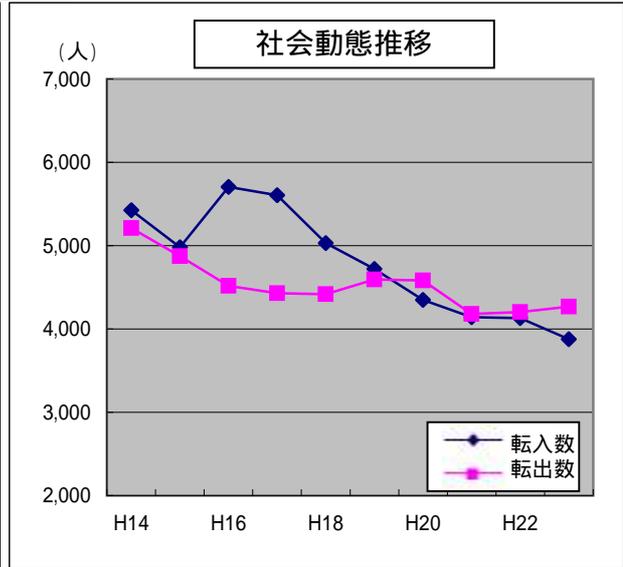
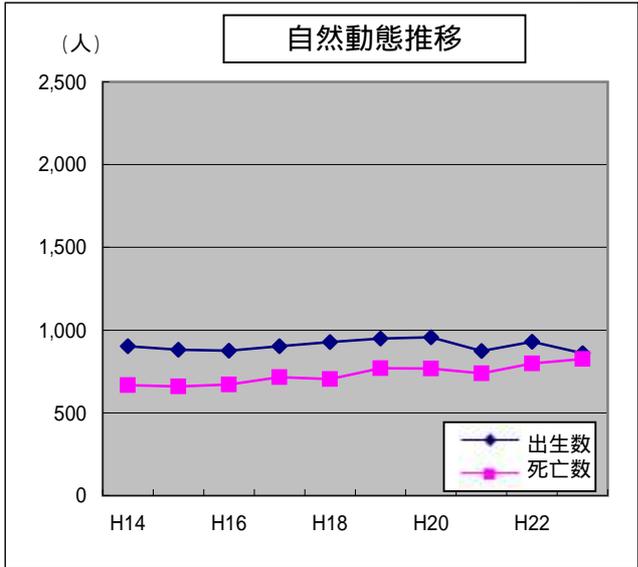


行政区域別動態推移

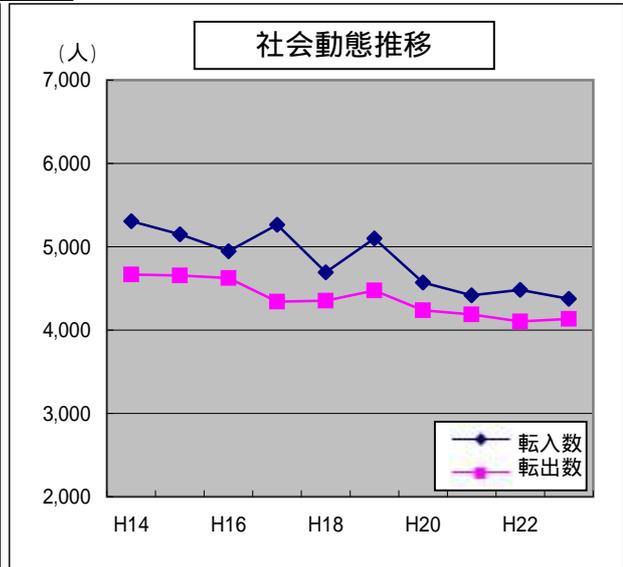
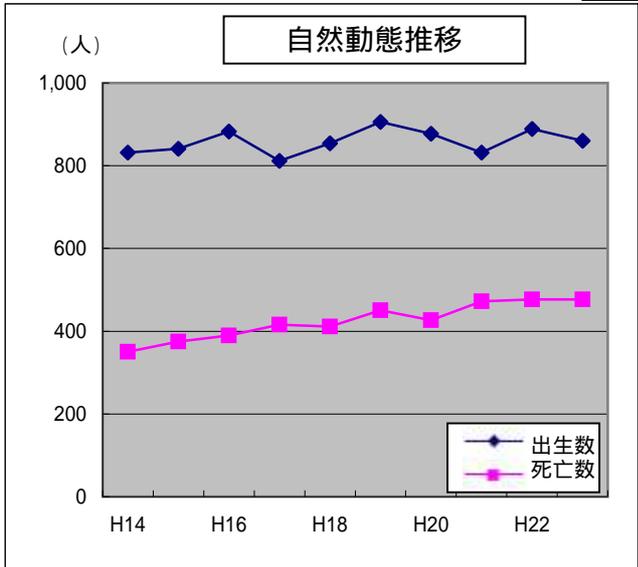
本 庁



鳴 尾

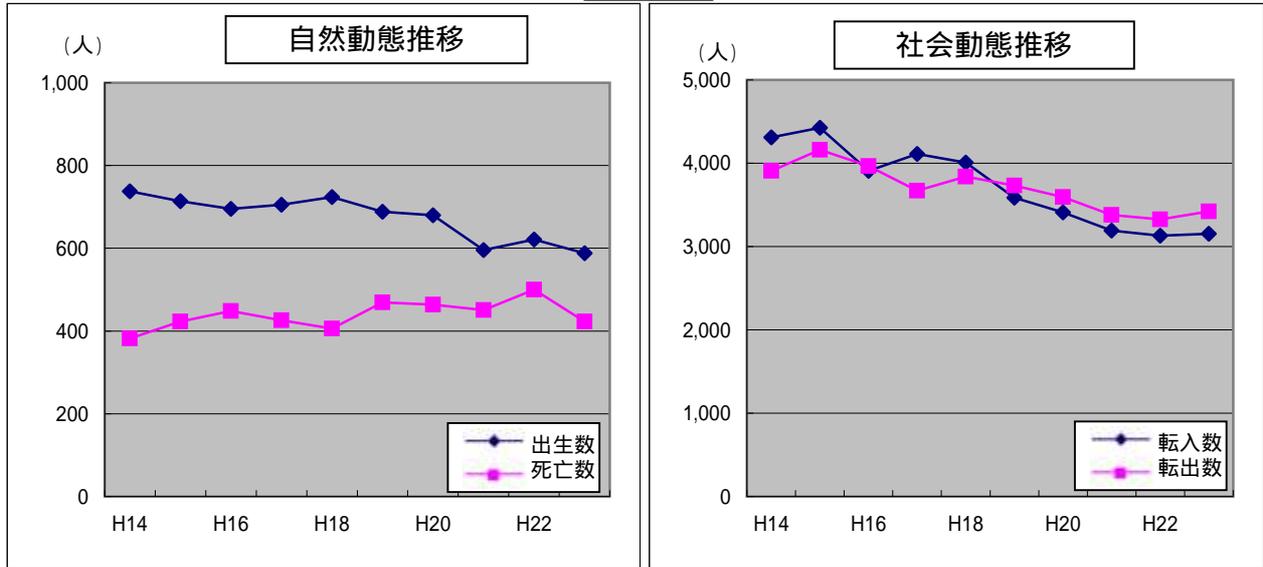


瓦 木

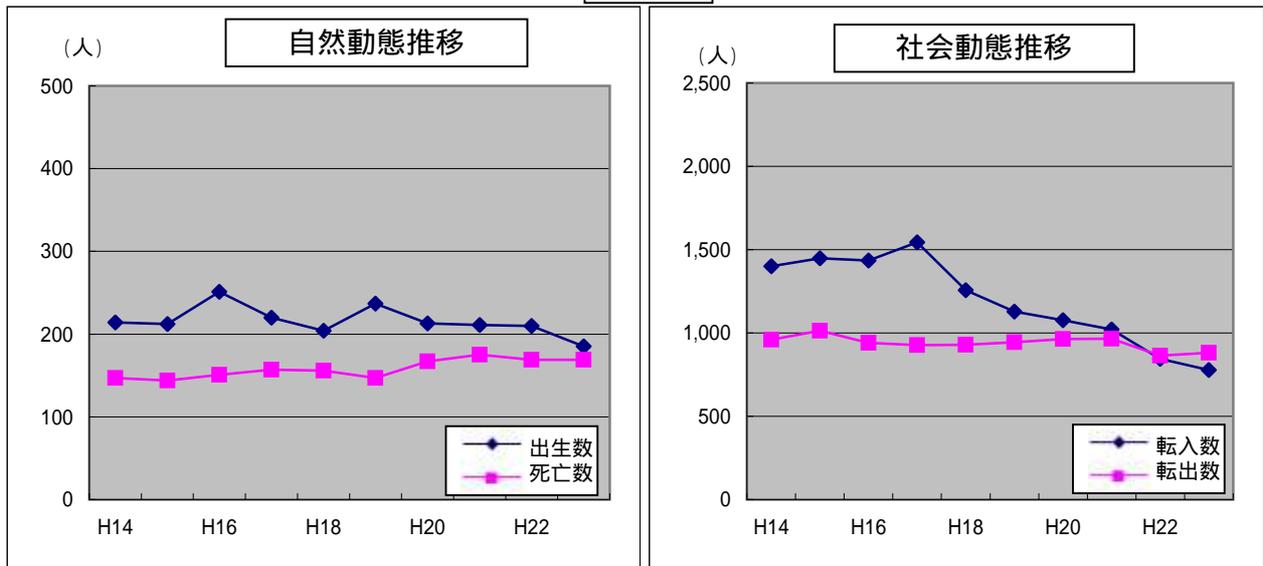


行政区域別動態推移

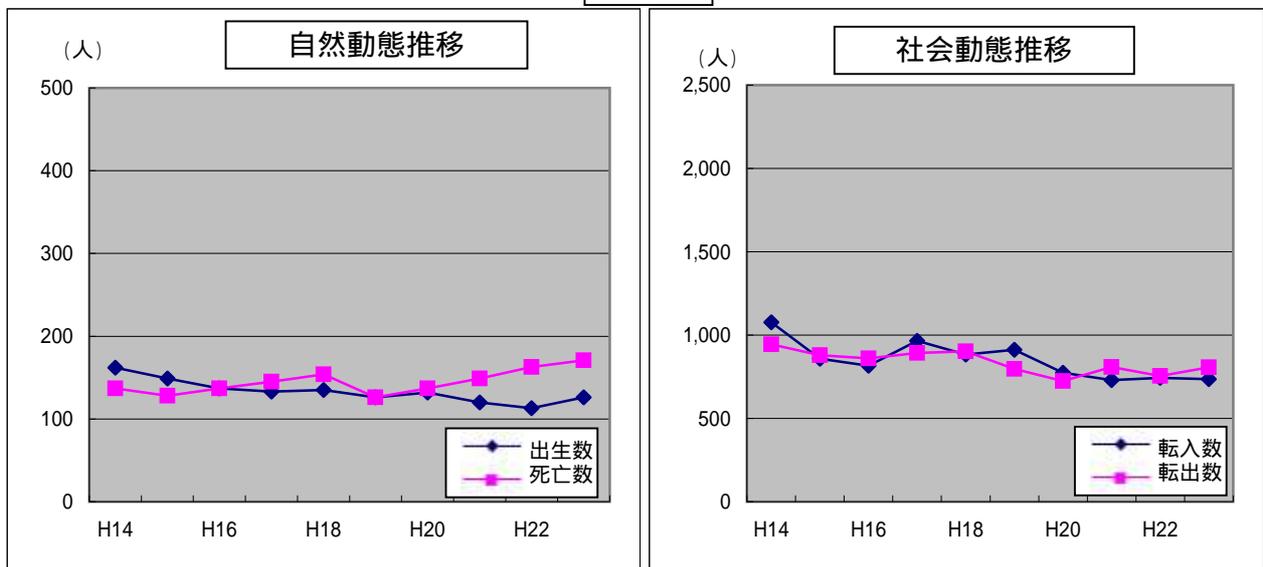
甲 東



塩 瀬



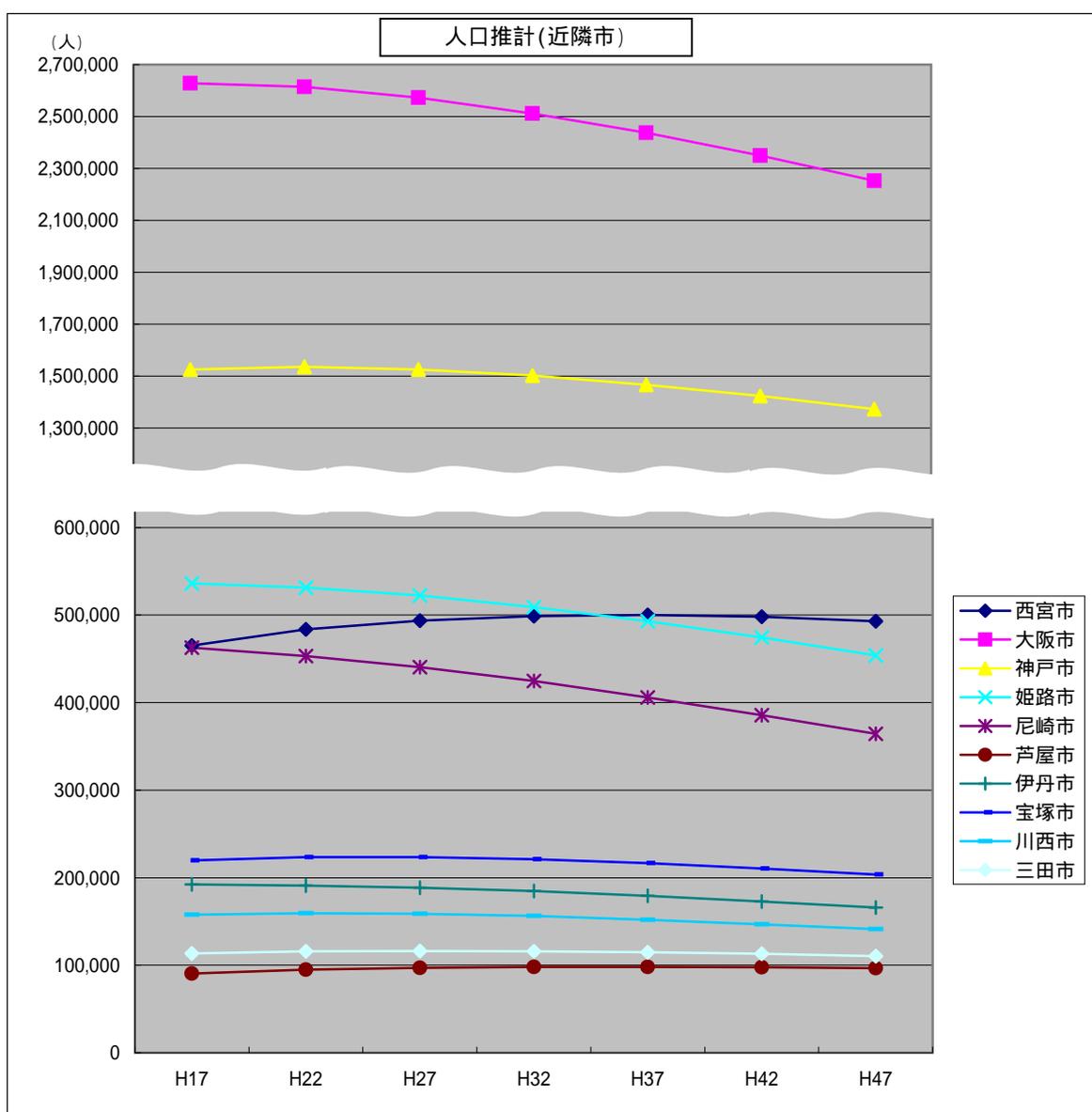
山 口



国の推計(H20.12)による近隣市の将来人口推計

(単位：人)

	H17	H22	H27	H32	H37	H42	H47
	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035
西宮市	465,337	483,678	493,619	498,939	500,084	498,066	493,075
姫路市	536,232	531,220	522,382	509,199	492,824	474,292	453,971
尼崎市	462,647	453,121	440,656	424,664	405,929	385,654	364,448
芦屋市	90,590	94,936	96,903	97,903	98,066	97,649	96,572
伊丹市	192,250	190,944	188,612	184,644	179,272	172,873	165,771
宝塚市	219,862	223,397	223,429	221,062	216,550	210,646	203,591
川西市	157,668	159,417	158,711	156,184	151,941	146,825	141,361
三田市	113,572	115,789	116,328	115,883	114,912	113,242	110,497
神戸市	1,525,393	1,535,415	1,525,539	1,501,950	1,466,951	1,423,522	1,372,748
大阪市	2,628,811	2,614,324	2,572,321	2,512,084	2,437,148	2,350,039	2,252,217



## 「平成 24 年度将来人口推計」の解説

### 1 . H24 推計の方法等

#### 1 ) 推計方法

当初推計 (H19) 同様、コーホート要因法 ( ) を採用した。

この推計方法は、国立社会保障・人口問題研究所や多くの自治体でも用いられており、中長期的な推計に適している。

コーホート要因法

コーホートとは同年または同期間に出生した集団のこと。

基準年の人口をベースに、出生、死亡、社会移動の要素から人口を推計する。

コーホート要因法の概略式

人口増減 = 自然増減 + 社会増減 = (出生 - 死亡) + (転入 - 転出)

#### 2 ) 基準人口 ... 本市住民基本台帳登録人口及び外国人登録人口を使用

(当初推計と同様であり、比較しやすくデータ更新も容易であるため)

#### 3 ) 推計対象期間

当初推計では、H14 から H19 の人口データを基に、H20 から H30 までの推計値を算出。

今回は、H14 から直近の H24 までの人口データを基に算出した。

### 2 . 当初推計との乖離

H20 ~ H24 において、H19 推計値に比べ実績が下回ったため、これがトレンド (傾向) となり、H24 推計値に反映され、マイナス効果をもたらせた。

この要因としては、「人口動態の推移」で示したように、社会動態推移において、転入と転出の差が無くなってきたこと、つまり本市への転入数が、近年、減少してきたことが主に考えられる。

### 3 . 転入数が減傾向に転じた要因

転入数の減は、H19 から傾向として表れていた。要因の詳細については、兵庫県や阪神間などの広域的な視点と、本市特有の事情を検証していく必要があるが、本市における新築分譲住宅の戸数等の推移をみても減少傾向が表れている。

H17 の甲子園競輪場跡地の開発後、大型開発はやや落ち着きをみせ、併せて、H17 の「教育環境保全のための住宅開発抑制に関する指導要綱」、H19 の「高度地区の全市的な強化と種別の追加」などの建築規制が、一定の抑制力を働かせたと考えられる。

### 4 . 行政区域ごとの事情

「行政区域別人口フレームの比較」では、行政区域別に、H19 推計と H24 推計を比較している。

最も乖離が大きい「鳴尾地区」については、甲子園九番町の市営住宅、枝川町の U R 団地等の建替えが、やや変則的な人口推移を引き起こしているが、これを除いても

全体的に減少傾向が表れている。

「甲東地区」についても減少傾向がみられるが、これは地域性として戸建て指向が強いこと、社宅の空きや撤去が影響していることのほか、出生数が下降気味にあることも要因と考えられる。

「塩瀬地区」については、名塩ニュータウンなどにおける人口増が足踏みし、下振れを招いたと考えられる。

唯一、H19 推計に比し増に転じている「瓦木地区」については、阪急北口駅周辺を中心に住宅建設が進んでいることと併せ、出生数も安定していることから、継続的に人口の増が続いていると考えられる。

## 5 . 年齢階層別人口推計

年少（0～14 歳）、生産年齢（15～64 歳）、高齢者（65 歳～）に区分して推計した。

H19 推計と H24 推計の差は、殆どが生産年齢人口によることが確認できる。

また、今後においては、年少人口の減と、高齢者人口割合の増加が進むとみられる。

## 6 . 阪神間・県・全国の人口推移

国においては、国立社会保障・人口問題研究所が、H22(2010 年)の国勢調査を受け、H24.1 にコーホート要因法にて全国将来人口推計を行っている。

推計の出発点となる H22(2010 年)の日本の総人口は 1 億 2,806 万人だが、出生中位推計の結果では、H30(2018 年)に 1 億 2,473 万人まで減るとしている。

また、H20.12 には、5 年刻みで各市町村別の人口も推計されており、これによると西宮市は、H27(2015 年)に 49 万 4 千人（H24 市推計では、48 万 8 千人）、H32(2020 年)に 49 万 9 千人（H24 市推計では、48 万 1 千人）と示されている。

なお、兵庫県及び近隣市（神戸市、姫路市、尼崎市、大阪市など）については、ほとんどが減少傾向となり、県下で暫くの間、増傾向が続くのは西宮市と芦屋市だけ、と示されている。

## 7 . H24 推計を受けて

全国的に人口減少が進む中、本市においては、まだ暫くは増傾向が続くことを示しているが、H30 を過ぎると数年で天井を打ち、その後は減に転じると予想される。

また、北口駅や本庁周辺においては安定した推移傾向にある一方、鳴尾や甲東では減傾向が表れるなど地域差が生じているほか、年齢階層資料からは高齢化率が着実に進むことが改めて確認できる。

総合計画の中間見直しにおいては、こういった人口の動向・傾向を認識しながら、施策の進め方を検討していく必要がある。